

資料・統計

2013年中央手術部統計

Annual Report of Operations in 2013

新潟県立がんセンター新潟病院
中央手術部

1. 消化器外科		食道癌	
胃		右開胸（開腹 22, Hals 5）	27
胃癌	290	胸腔鏡下（開腹 8, Hals 2）	10
Staging laparoscopy	33	左開胸	3
切除		開腹	2
全摘	43	咽喉食道全摘	0
残胃全摘	10	遊離空腸移植	0
噴門側切除	9	食道抜去	0
幽門側切除（開腹）	97	試験開胸	0
幽門側切除（腹腔鏡下）	19	頸部リンパ節郭清	2
PPG	22	腹部リンパ節郭清	1
分節切除	0	食道切除後2次の再建術	1
SSD・部分切除	4	バイパス術	0
非切除		胃管癌	1
単開腹	4	胃管全切除（胸骨縦切開）	1
バイパス	0	胃管部分切除	0
その他	1	特発性食道破裂	0
再発		肝胆膵	181
肝転移切除	5	肝腫瘍	
卵巣転移切除	2	肝細胞癌	9
リンパ節郭清	1	肝内胆管癌	3
局所切除	3	転移性肝癌	24
腸切除	2	胆道癌	
バイパス	1	十二指腸乳頭部癌	1
人工肛門造設	1	胆嚢癌	6
イレウス		胆管癌	9
癒着剥離	1	膵臓疾患	
腸切除	8	膵癌	30
バイパス	1	I P M A ・ M C N	3
人工肛門造設	0	膵腫瘍	3
胃瘻・空腸瘻	2	その他悪性腫瘍	
非上皮性腫瘍		十二指腸癌	3
GIST	10	GIST	1
悪性リンパ腫	2	小腸癌	2
その他	1	N H L	3
その他	8	その他悪性	7
食道	45	その他	
良性腫瘍	0	胆石症・胆嚢ポリープ	25
非上皮性腫瘍	2	膵胆管合流異常症	1
		ヘルニア	6

	閉塞性黄疸	30		骨盤内蔵全摘術	2
	腹腔内膿瘍	3		経肛門的切除術	3
	腸閉塞	1		非切除術 (人工肛門造設術)	4
	他科疾患	4		その他	1
	その他良性	4	直腸良性		0
	術後合併症	3	再発・転移		32
術式	膵頭十二指腸切除術	28		肝切除術	19
	膵体尾部切除術	12		腹膜播種腫瘍切除術	3
	膵中央切除術	2		骨盤内リンパ節郭清術	3
	肝膵同時切除	1		低位前方切除術	1
	肝切除	25		ハルトマン手術	1
	肝門部胆管癌手術	3		膀胱全摘術	1
	胆嚢癌根治術	2		膀胱部分切除術	1
	胆管癌手術	1		経肛門的切除術	1
	腹腔鏡下胆嚢切除術	17		人工肛門造設術	1
	ラジオ波焼灼術	6	肝転移	27 (上記原発再発症例に含まれる)	1
	その他悪性腫瘍切除	15	異時	19 (上記再発症例に含まれる)	1
	開腹胆摘術	5	同時	8 (上記原発症例に含まれる)	1
	総胆管結石石切除術	5	その他の手術	52 (内緊急手術 11)	11
	胆道再建	3	他科癌・他癌		18
	PTCD/PTAD	30		低位前方切除術	1
	生検	5		超低位前方切除術	1
	その他	18		腹会陰式直腸切断術	1
	PTPE	3		ハルトマン手術	1
	結腸, 直腸手術症例	294		S状結腸切除術	1
	原発	210		回盲部切除術	1
結腸悪性	123		会陰部腫瘍切除術	1	
(腹腔鏡下手術)	53)		人工肛門造設術	4	
右半結腸切除術	52		人工肛門閉鎖術	1	
S状結腸切除術	39		腸管 (腹壁) 修復・剥離術	5	
横行結腸切除術	14		試験開腹術	1	
左半結腸切除術	5	人工肛門閉鎖術		18	
回盲部切除術	4	洗浄ドレナージ人工肛門造設術		3	
右結腸切除術	3	腸閉塞手術 (剥離)		3	
下行結腸切除術	2	人工肛門形成術		2	
横行結腸下行結腸切除術	1	人工肛門造設術		1	
低位前方切除術	1	直腸部分切除術		1	
超低位前方切除術	1	痔瘻手術		1	
非切除術 (人工肛門造設術)	1	止血術		1	
結腸良性	1	ドレナージ		1	
(腹腔鏡下手術)	0)	その他の手術		3	
直腸悪性	86				
(腹腔鏡下手術)	46)				
低位前方切除術	36				
超低位前方切除術	17				
前方切除術	15				
直腸切断術	5				
ハルトマン手術	3				

2013年の消化器外科における各臓器での入院手術件数は、食道:45件 (8件減少), 胃:290件 (26件減少), 結腸:294件 (11件減少), 肝胆膵:181例 (16件減少)と前年より全体的に減少していた。鏡視下手術の件数は、食道:10件 (3件増加), 胃:19件 (3件増加), 結腸:99件 (5件増加), 肝胆:17件 (2件減少)であり、鏡視下手術の総数は昨年と比較して増加して

いるが、他施設と比較して上部消化管に対する鏡視下手術の割合が低く、今後は鏡視下手術の件数を増やす努力が必要である。がんセンターへ紹介される症例は高度進行例が多く、術前化療後の手術が増えている。困難な症例に対する手術においても、周術期成績及び遠隔成績を向上させるように日々の努力が必要である。(文責：中川 悟)

2. 乳腺外科

外来手術		
乳腺	1	
入院手術		
乳腺		
良性+プローベ	23	
乳癌	307	
Auchincloss	51	} 100
Mastectomy + SLNB	46	
Simple mastectomy	3	
Lumpectomy + Ax	53	} 207
Lumpectomy + SLNB	107	
Lumpectomy	47	
その他		
局所再発 (リンパ節, 創)	3	
温存乳房切除	5	
温存乳房部分切除		
乳房内再発	3	
後出血	0	
その他	3	

2013年の原発性乳癌手術数は307例で、昨年度より29例減少していた。温存療法は約67%に施行されていた。腋窩リンパ節手術を施行した257例のうち、センチネルリンパ節生検 (SLNB) のみで終了できた症例は153例 (約60%) であった。乳房再建については形成外科で集計されていると思うが、今後も徐々に増加していくことが予想される。

(集計・文責 神林智寿子)

3. 呼吸器外科

() 胸腔鏡手術

1. 気管 (支) 疾患	1
気管切開	1
気管支瘻	0
2. 肺疾患	246 (63)
2-1 良性肺疾患	9 (5)
類上皮肉芽腫	5 (4)
炎症性偽腫瘍	1 (0)

良性肺腫瘍 (過誤腫)	1 (1)
他	2 (0)
2-2 悪性腫瘍	237 (58)
2-2-1 原発性肺癌	209 (49)
全摘除	1 (0)
肺葉切除	164 (46)
区域切除	35 (1)
部分切除	9 (2)
試験開胸	0
審査開胸	0
他	0
2-2-2 転移性肺腫瘍	28 (9)
結腸直腸癌肺転移	14 (5)
食道癌	3 (0)
腎癌	3 (1)
精巣	2 (0)
肝・胆・膵	1 (0)
頭頸部癌	1 (0)
子宮	1 (1)
骨軟部腫瘍	1 (1)
胃	1 (1)
他	1 (0)
3. 縦隔疾患	8 (0)
3-1 縦隔腫瘍	8 (0)
胸腺腫	4 (0)
神経性腫瘍	1 (0)
胸腺癌	1 (0)
胸腺カルチノイド	1 (0)
他	1 (0)
3-2 縦隔鏡検査	0
4. 胸膜疾患	9
術後気漏	1 (0)
膿胸	7 (0)
胸膜生検	1 (0)
胸膜中皮腫	0
5. 胸壁疾患	0

2013年の手術総数は283件で、昨年とほぼ同数であった。原発性肺癌手術例は2011年から3年連続して200症例以上をキープし、昨年より若干減少したが209例であった。手術死亡例は昨年に続きなかった。肺癌に対する胸腔鏡補助下 (VATS) は減少したが、呼吸器外科スタッフの交代や2cm以下の小型肺癌に対する区域切除において複雑な症例が多くなってきたためと思われる。また、2cm以下の肺癌に対する区域切除と肺葉切除の第III相比較試験(JCOG0802)にも積極的に参加し登録数は引き続き全国の上位をキープしている。(文責 吉谷 克雄)

4. 整形外科

腫瘍性疾患	
良性軟部腫瘍	
切除術 (切除個数)	91
生検	4
良性軟部腫瘍	計 95
良性骨腫瘍	
切除または搔爬+骨移植	30
切除+人工関節	0
生検	6
良性骨腫瘍	計 36
悪性軟部腫瘍広範切除	14
広範切除+皮弁など再建	10
辺縁切除 (術後照射, 化学療法併用)	4
その他	7
生検	15
悪性軟部腫瘍	計 50
悪性骨腫瘍	
広範切除	3
広範切除+人工関節・人工骨頭	0
切除	3
生検	2
悪性骨腫瘍	計 8
転移性腫瘍・脊椎	
除圧・後方固定	0
転移性腫瘍	
髄内釘・ピンニング	3
切断	2
広範切除+再建	1
人工骨頭置換術	3
切除・生検	17
転移性腫瘍	計 26
非腫瘍性疾患	
腫瘍性疾患	計 215
脊椎疾患	
腰部脊柱管狭窄	0
腰椎椎間板ヘルニア	0
脊椎疾患	計 0
股関節疾患	
人工股関節置換術	4
人工股関節再置換術	2
人工骨頭置換術	2

股関節疾患	計	8
膝関節疾患		
人工膝関節置換術		5
人工膝関節再置換		0
膝関節固定		0
膝関節疾患	計	5
肩・肘・手関節疾患		
腱鞘切開		9
手根管開放術		2
滑膜切除		2
腱移行・腱移植・腱剥離		3
人工肘関節置換術		1
神経移行, 剥離		3
肩・肘・手関節疾患	計	20
足・足関節疾患		
人工関節		2
外反母趾矯正		0
関節固定術		3
足・足関節疾患	計	5
その他	骨接合術	6
デブリードマン		12
抜釘・異物除去		4
その他		21
その他	計	43
非腫瘍性疾患	計	81
総合	計	296

総手術件数に対する腫瘍性疾患の比率は62.9%であった。腫瘍性疾患のうち良性腫瘍67.3%, 悪性骨軟部腫瘍19.8%, 転移性腫瘍12.9%であった。
(文責 有泉高志)

5. 脳神経外科

1) 腫瘍摘出術	19
悪性腫瘍	16
良性腫瘍	3
2) 脳血管障害	1
血腫除去術	1
他	0
3) 頭部外傷	6
急性頭蓋内血腫	0
慢性硬膜下血腫	6
4) その他	9

オンマイヤー設置	5
生検術	1
他	3
総手術件数	35

本年度は昨年度よりも手術総数は31例減少した。手術数の減少は頭蓋内腫瘍摘出術の減少によるもので、髄膜腫の減少と転移性脳腫瘍の摘出術の減少によるものである。定位放射線治療が50例あり、手術適応にならず、ノバルリスによる放射線治療になった数が影響したものと考えられる。

高齢者の転移性脳腫瘍患者の手術例も少なからず経験されるようになってきている。

(文責 高橋英明)

6. 婦人科

腹式子宮全摘出術 (+ 附属器摘出術など)	61
子宮筋腫	44
子宮腺筋症	4
子宮頸部異形成	3
子宮頸癌	0期
	I A1期
子宮内膜増殖症	1
glandular dysplasia	1
LEGH	1

腔式子宮全摘出術	7
子宮頸部異形成	4
子宮頸癌	0期
	3

準広汎子宮全摘出	8
子宮頸癌	I A1期
	I A1再発
	I B1期
	I B2期
子宮体癌	4

広汎子宮全摘出術	13
子宮頸癌	I B1期
	I B2期
	II A期
	II B期

子宮体癌手術	54
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清 準広汎子宮全摘以上を除く。子宮肉腫を含む)	

子宮体癌	I A期	28
	I B期	9

II期	6
III A期	0
III B期	1
III C1期	3
III C2期	3
IV A期	0
IV B期	4

悪性卵巣腫瘍手術(原発性) 26
(原則的に子宮全摘出術+両側附属器摘出術+骨盤リンパ節郭清+大網切除術)(卵管癌, 腹膜癌を含む)

卵巣癌	I a期	5
	I b期	0
	I c期	5
	II a期	1
	II b期	1
	II c期	3
	III a期	0
	III b期	0
	III c期	9
	IV期	0
卵管癌	III c期	1
腹膜癌	III c期	1

悪性卵巣腫瘍手術(境界悪性腫瘍) 5
悪性卵巣腫瘍手術(転移性) 3

子宮頸部円錐切除術	116
子宮頸部異形成	69
子宮頸癌	0期
	I A1期
	5

LEEP (Loop Electrocautery Excision Procedure)	42
子宮頸部異形成	32
子宮頸癌	0期
	10

その他の悪性腫瘍手術	26
外陰悪性腫瘍手術	5
原発不明癌	1
再発癌手術	12
試験開腹術	8

附属器摘出術 34
(附属器腫瘍摘出術を含む)

子宮筋腫核出術	22
---------	----

子宮脱手術	9
腔式子宮全摘出術+腔壁形成術	6
LeFort手術	3

腹腔鏡下手術	40
良性卵巣腫瘍	37
筋腫核出術	1
LAVH	1
TLH	1
経頸管的切除 (TCR)	22
子宮筋腫	8
子宮内膜ポリープ	14
子宮内容除去術	11
子宮体癌疑い	9
内膜ポリープ	1
胞状奇胎	1
その他	26
外陰腫瘍摘出術	4
ドレナージ	2
CVポート抜去	6
組織内照射	4
回盲部切除術	1
鼠径リンパ節切除	1
腹壁癒痕ヘルニア修復	1
後腹膜腫瘍摘出術	1
子宮外妊娠手術	3
腔腫瘍摘出術	2
経管拡張術	1
計	525

2013年の手術件数は525件であり、前年の486件より増加した。うち332件は悪性腫瘍または関連疾患に対する手術であり、全体の約2/3を占めていた。
(文責 柳瀬 徹)

7. 泌尿器科

副腎腫瘍の手術	(小計5)
副腎癌摘出術	3
副腎褐色細胞腫摘出術	1
副腎腺腫摘出術	1
腎腫瘍および腎の手術	(小計88)
根治的腎摘出術	31
腹腔鏡下根治的腎摘出術	1
腹腔鏡補助下小切開根治的腎摘出術	1
腎部分切除術	30
腹腔鏡補助下小切開腎部分切除術	3
腎腫瘍生検	1
経皮的腎瘻造設術 (PNS)	19
腎その他	2

腎盂尿管腫瘍および尿管の手術	(小計139)
腎尿管全摘出術	35
経尿道的尿管腫瘍切除術	1
尿管カテーテル法 (留置を含む)	96
尿管狭窄拡張術	5
尿管損傷修復術	2
膀胱腫瘍および膀胱の手術	(小計320)
膀胱全摘+回腸導管	10
膀胱全摘+尿管皮膚瘻	2
膀胱全摘+回腸膀胱	2
膀胱部分切除	3
経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT)	289
膀胱内血腫除去・止血術	3
膀胱損傷修復術	3
膀胱陰瘻閉鎖術	1
経尿道的膀胱結石破碎術	4
その他	3
尿道腫瘍および尿道の手術	(小計14)
経尿道的尿道腫瘍切除術	2
内尿道切開術	12
前立腺腫瘍および前立腺の手術	(小計457)
前立腺生検	408
前立腺全摘出術	33
経尿道的前立腺切除術	7
両側精巣摘出術 (去勢術)	9
精巣腫瘍の手術	(小計22)
高位精巣摘出術	20
精巣部分切除術	1
後腹膜リンパ節郭清	1
陰茎腫瘍の手術	(小計1)
陰茎部分切除術	1
後腹膜腫瘍の手術	(小計4)
後腹膜腫瘍摘出術	3
後腹膜腫瘍開放性生検	1
その他	(小計3)
総計	1053 手技 (975件)

2013年の手術件数は975件 (1053手技) で、前年度よりやや減少した。近年と同様、悪性腫瘍の治療、もしくはそれに関連した病態に対する手術で占められていた。腹腔鏡下手術の適応拡大やロボット支援手術の導入が今後の課題であろう。

(文責 小林和博)

8. 眼科

水晶体再建術: 眼内レンズを挿入する場合	152
水晶体再建術+緑内障流出路再建術	4
濾過手術を含む緑内障手術	2
腫瘍を含む眼瞼結膜手術	16

前房硝子体手術	4
合計	178

相変わらず1名による手術体制であるが、2013年の手術件数は、冬場のインフルエンザの院内集団発生、入院制限により178件であった。手術の種類が多岐となり、難易度の高い症例も多く、他医から紹介される手術対象患者の比率が増大傾向にある。

一方で、器械の老朽化が著しく、機種更新をすることによって、さらなる手術件数の増加が見込まれる。
(文責 原 浩昭)

9. 皮膚科

悪性腫瘍

悪性黒色腫	41
基底細胞癌	97
有棘細胞癌	53
ボーエン病	25
日光角化症	11
外陰パジェット病	5
皮膚付属器癌	15
悪性軟部腫瘍	3
悪性リンパ腫	28
転移性皮膚癌	2
血管肉腫	0
その他の悪性腫瘍	2
小計	282

良性腫瘍・その他

母斑細胞母斑	140
上記以外の母斑	8
表皮嚢腫（粉瘤）	67
脂漏性角化症	56
脂肪腫	48
皮膚線維腫・軟線維腫	25
良性皮膚付属器腫瘍	13
血管腫	22
ケラトアカントーマ	10
石灰化上皮腫	16
慢性膿皮症	1
良性神経系腫瘍	15
その他	45
小計	466

2013年は悪性腫瘍の手術件数が前年よりも50件以上増加していた。常勤医が3名体制になったこともあり、今後も手術治療を中心とした皮膚癌医療の充実を図っていきたい。
(文責 竹之内辰也)

10. 頭頸部外科

甲状腺・副甲状腺

副甲状腺腫瘍摘出	4
甲状腺腫瘍生検	2
甲状腺良性腫瘍半切	22
甲状腺癌（半切，D1郭清）	35
甲状腺癌（半切，側頸部郭清）	6
甲状腺癌（全摘）	5
甲状腺癌（全摘，頸部郭清）	5
甲状腺癌（全摘，頸部郭清，縦隔郭清）	1

小計 80

頸部

頸部腫瘍生検	23
頸部郭清術のみ （原発操作に付属する頸部郭清）	4 (22)

小計 49

気管・喉頭

気管切開	14
硬性鏡下喉頭腫瘍生検	30
喉頭垂直部気切後皮弁壊死除去	1
喉頭垂直部切	2
喉頭腫瘍切除術（LASER）	1
喉頭亜全摘（CHEP）	2
喉頭全摘	5

小計 55

口腔・口唇

口腔腫瘍生検	1
口腔良性腫瘍切除	4
硬口蓋神経鞘腫切除前腕皮弁再建	1
口腔癌切除	2
舌悪性腫瘍手術顎二腹筋弁再建	2
舌悪性腫瘍手術外側大腿皮弁再建	1

小計 11

咽頭

中咽頭検査・生検	6
中咽頭腫瘍切除	2
中咽頭癌切除	1

術後咽頭瘻孔閉鎖前腕皮弁再建	1
佐藤式彎曲鏡下咽頭鏡検査・生検	19
下咽頭ESD	1
喉頭温存下咽頭部分切除前腕皮弁再建	1
小計	31
鼻副鼻腔	
上顎開窓術	1
鼻副鼻腔腫瘍生検	2
鼻腔腫瘍切除	2
鼻腔平滑筋肉腫切除	1
小計	6
大唾液腺	
耳下腺生検	1
耳下腺良性腫瘍	7
耳下腺癌切除	1
顎下腺生検	1
顎下腺腫瘍切除	1
顎下腺癌切除	1
小計	12
その他	
プロボックスボイスプロテーゼ留置術	8
頸部脂肪腫	1
側頸部嚢胞	2
歯原性嚢胞穿刺	1
歯原性嚢胞ドレナージ, 生検	1
歯原性嚢胞摘出	1
ポート抜去	2
頸部瘻孔閉鎖	1
頸部膿瘍ドレナージ	2
術後頸部リンパ漏	1
上縦隔腫瘍生検	1
小計	21
合計	265

手術総数は2010年167件, 2011年236件, 2012年の261件と順調な右肩上がりであったが, 2013年は265件と件数だけを見れば現状維持であった。ただし, 質的には当科のテーマである機能温存治療が強化された内容である。

【甲状腺癌】 甲状腺症例は3年前と比較して手術件数が倍増していた。県内全域他科の先生方からご紹介が多くなってきたためである。技術面では, Inter Operative Nerve Monitoring により反回神経温存に務め, Ligasure Small Jawの導入で低侵襲手術を継続している。

【機能温存手術】 当科の特色のひとつに喉頭機能温存手術がある。喉頭垂直部分切除, 喉頭温存下咽頭部分切除, 喉頭亜全摘(CHEP:Cricohyoidepiglottepy), プロボックス手術が当院で可能であり, 全国的にもこれだけ対応できる施設は限られる。CHEPは現時点で11例を経験しているが, 一層の普及が望まれる。プロボックス手術は元議員の与謝野馨氏も受けた手術として有名である。2013年春から言語聴覚士の加入により患者目線の診療内容には深みが増している。

【総評】 手術以外にも頭頸部癌の放射線化学療法では口腔ケア, 胃瘻増設, オピオイドベースの疼痛管理, 放射性皮膚炎管理プログラムなどの多彩な支持療法により安定した治療を可能にしている。さらに, 県内主要施設, 県外施設との多施設共同研究は継続中である。当科はこれからも新潟県頭頸部癌治療のリーダーとして更なる発展を続ける責務がある。

(文責 佐藤雄一郎)

11. 形成外科 (1-9月)(10-12月)

悪性腫瘍およびそれに関連する再建	15	9
エキスパンダー挿入		1
植皮	1	3
有茎皮弁	6	2
遊離皮弁	2	3
消化管血管追加吻合	6	
瘢痕, 瘢痕拘縮, ケロイド		1
瘢痕拘縮形成術		1
その他		1
眼瞼下垂症手術		1
計	15	11

2013年10月から常勤化いたしました手術件数は少数です。他科との手術に積極的に取り組み, ご紹介頂いた患者さんにはご納得いただけるよう対応したいと考えています。新たな負担をおかけしています関係部署に感謝申し上げます。(文責 坂村律生)